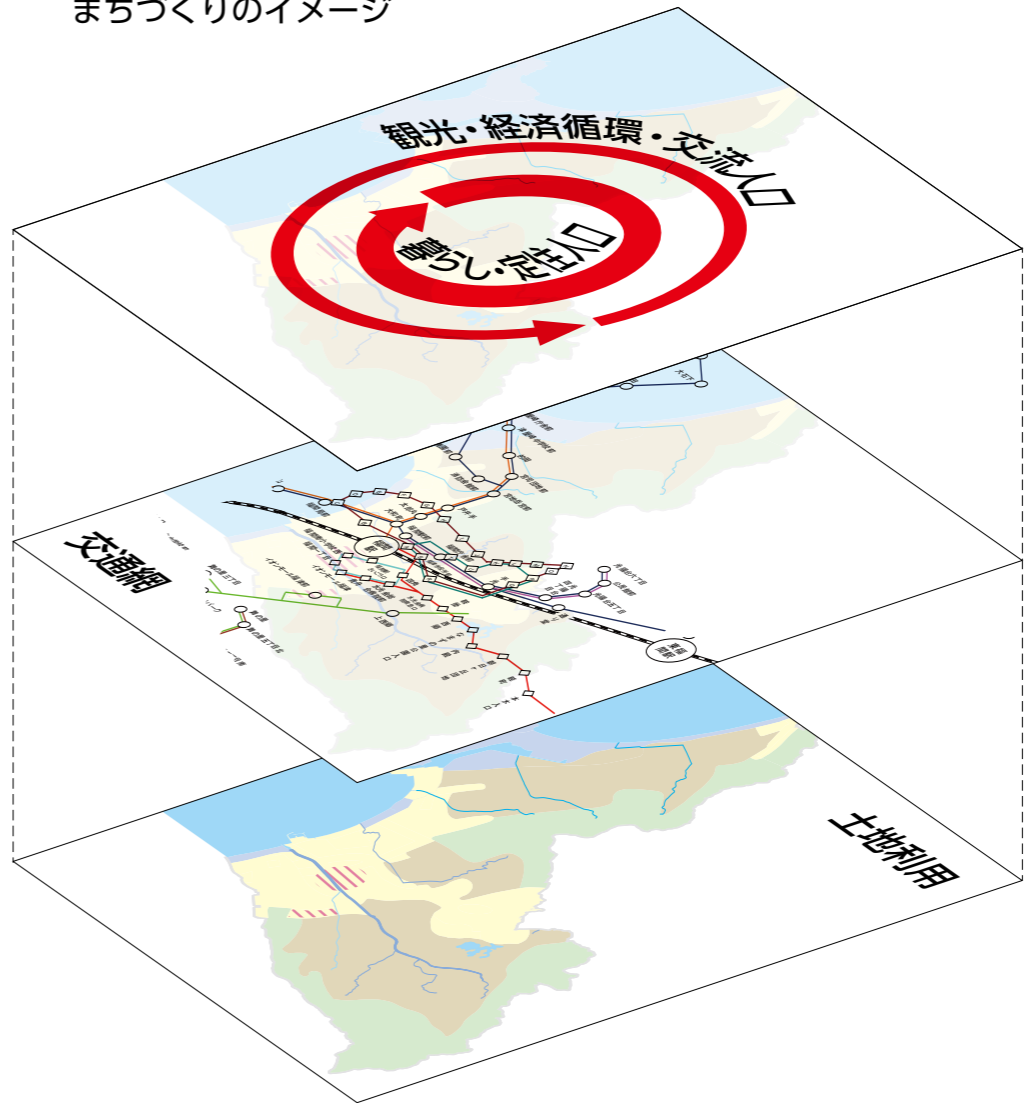


未来につなぐ新たなまちづくり

人口が増加している福津市においても、高齢化、インフラ設備の老朽化、店舗や交通機関の撤退、一次産業の衰退など、さまざまな課題を抱えています。これらの課題は密接に関係しているため、これまでのように担当部署が各々で対応するのではなく、総合的な取り組みを行うていく必要があります。そこで現在、市が進めている新たなまちづくりの取り組みの概要とそれに携わる人たちの声を紹介します。

問い合わせ 市都市管理課 ☎62・5036

まちづくりのイメージ



一体的、総合的に取り組み 効果を上げる

これまでの10年間で、市では大がかりな都市基盤づくりが行われてきました。福岡県東土地区画整理事業による日野野地区のまちづくり、JR福岡駅の整備と駅周辺道路網の整備、大型商業施設の立地誘導です。これによって市の中心拠点が形作られました。その結果、生活の利便性が向上し、多くの宅地が供給されたことや市全域に公共下水道が行き渡ったことで、市の人口は近年急速に増加しています。市の将来都市像やまちづくりの方針を示した「都市計画マスタープラン」では、JR福岡駅周辺を市の中心拠点、

津屋崎地区と東福岡駅周辺を地域拠点として位置付けています。しかし、地域拠点整備については、一部を除いて進んでいないのが実情です。また、市を取り巻く状況として、高齢化、子育て世代の急増、道路や水路などの老朽化、空き家問題など、徐々に深刻度を増していくと思われまます。さらに、定住人口の確保や暮らしの環境の向上とともに今後重要となるのが、交流人口を増やす取り組みです。国の「地方創生」の取り組みは、地域経済の活性化なくして国力の維持はないという方針が進められています。市には、新原・奴山古墳群の世界遺産登録や宮地嶽神社、津屋崎千軒、福岡海岸などの観光資源

拠点		中心拠点
		地域拠点
資源等		観光交流スポット
		水と緑とのふれあいスポット
		シンボリックな自然
骨格		道路交通の骨格軸
ゾーン区分		市街地・沿道ゾーン
		商業・業務ゾーン
		観光交流ゾーン
		農業・田園ゾーン
		山林ゾーン
		海岸ゾーン
		道路
		水面



現在策定中の次期都市計画マスタープラン
(計画期間平成30年度～平成39年度)
将来都市構造(案)

が点在しています。これらの回遊性を高めるとともに、農水産業やその流通・加工、飲食業と関連付けた観光につながる産業全体として、経済の好循環を生み出すことが必要です。

今後取り組むべきこれらの課題は、市の将来都市像や土地利用、道路交通網、鉄道やバス路線などの公共交通網、地域の活性化といった分野で相互に密接な関わりがあります。これらを一体的に一つの部署が担うことによって、施策の連動性が増し有効な取り組みとなると考えています。市では現在、今後10年間の都市計画マスタープランの策定、地方創生、津屋崎千軒観光活性化、東福岡駅周辺整備、市の農水産業と観光・消費を結び付けるための新たなまちづくり組織の設立、あんずの里市の改修、ふくつミニバスも含めた公共交通網形成計画の策定に取り組んでいます。



▲津屋崎漁港で水揚げされた新鮮な水産物が並ぶお魚センターうみがめ

新たなまちづくり組織の設立

福津産の農水産物の販路の拡大を推進し、観光と連動した市内の流通を強化するため「新たなまちづくり組織」の設立に取り組んでいます。農水産業と観光産業、消費者を結びつけて市内経済の好循環を作り出すため、直販所のある里市、ふれあい広場ふくま、お魚センターうみがめや農・漁業者との連携の強化と生産者支援を図ります。また、市内飲食店の参画を

促し、学校給食との調整を行うなど、一般消費者との取引だけでなく事業者との取引も視野に入れていきます。市外においても新たな販路の開拓とその多様化を目指します。

また、市内の買い物困難地域への生鮮食品の販売も視野に入れるほか、PR活動や6次産業化、ふるさと納税を担うことで、福津ブランドの向上を図ります。

観光客が遊んで食べて満喫できるまちに

新たなまちづくり組織が、地産地消の仕組みを作り出せると期待しています。現在、市内の水産物直販所は魚センターだけではなく、農産物の直売所と連携し、農水産物の需要と供給のバランスを直販所ごとに見極めて融通し合うことも可能になると考えます。また、観光客が直売所や飲食店で福津の食に触れる機会を増やすことも重要です。食も含めて観光を楽しめれば、観光客の市内での消費や市の魅力の向上にもつながると思います。将来的には、その地産地消の循環が、漁業の活性化や若い人が漁業に従事する後押しになればと思います。



▶浜の元気を応援する、株式会社はまげんの代表取締役で、魚センターの経営支援に携わる市地方創生の農業アドバイザー石谷誠さん

生産者と消費者をもっと結びつけたい

農業の活性化には、収益性の向上が必要です。福津市は人口の増加や生産地と消費地の近さなど良い条件がそろっています。これを生かし、市内の消費者や飲食店などでの地産地消の促進、観光業と連携した福津産の農産物フェアなどの市外へのアピールが大切です。また、消費者のニーズは変化していきます。作っただものを売るのではなく、売れるものを作るという生産方針への転換も収益性を上げる方法の一つです。そういった営農指導も含めたさまざまな面で生産者をサポートし、福津の農業を良い方向に導くきっかけを作れたらと思います。



▶株式会社ふくれん第二営業部副部長兼青果課長で、農産品の流通や営農指導に精通する市地方創生の農業アドバイザーの場野文さん

訪れた人みんなが満足できる地域づくり

農水産物など市の魅力的な資源を効果的に観光資源として生かすためには、それらの生産者と観光業の連携が必要です。観光業の役割は、地域資源を活用し、さらに魅力的なものにする仕掛けを考えること、そして情報を効果的に発信することです。そのためにも、例えばコンセプトなどを生産者と一緒に決めていくことも大切でしょう。市には、そういった場を調整したり時にはアドバイザーしたりして、新たなまちづくり組織を支えてほしいです。訪れた人がみんな満足できる仕組みづくり、地域づくりを目指し、交流人口を増やせたらと思います。



▶温泉ソムリエ、情報番組コメンテーターほか多方面で活躍し、福岡海岸利用組合の発起人でもある市地方創生の観光アドバイザー花田伸二さん



▲まちを歩けば風情あるまちなみを楽しめます

津屋崎千軒の観光活性化

津屋崎千軒は、江戸時代中期から明治時代の末期にかけて製塩と交易の港として栄え、五十集船の入船出船で賑わいました。現在でも、漁港や懐かしき風情あるまちなみが残っています。津屋崎千軒には、豊村酒造や藍の家といった歴史的建造物がありま

す。これらを後世に残そうと、津屋崎地域郷づくり推進協議会や地元有志によってNPO法人「津屋崎千軒を未来につなぐ会」が設立されました。そして、これらの観光資源としての魅力を再発掘するため、市とNPO法人、豊村酒造と連携し、新たな観光活性化に向けた取り組みを推進しています。観光活性化による交流人口、定住人口の増加を図り、地域拠点としての役割を確立していくことを目指しています。

津屋崎千軒を次世代へ

豊村酒造の煙突は、平成17年の福岡西方沖地震の影響でひびが入りました。煙突の保存にかかるお金の問題もあり、解体が検討されました。それを耳にした私たちは、津屋崎千軒のシンボルである酒蔵を残し、今の風景を次世代まで大切にしたいと考え、NPO法人「津屋崎千軒を未来につなぐ会」を立ち上げました。

歴史的価値を生かしたまちづくりを

私が津屋崎千軒を初めて訪れたのは10年以上前のことです。歴史的な建築価値はもちろ

地元で長く住む人たちにとって、煙突がある風景が当たり前でしたが、その場所が更地になるかもしれない状況に直面しました。私たちは、煙突を含めた酒蔵の保存と活用を市や県、国にお願いするために、署名を集めました。市民だけでなく観光客からも署名が集まり、8千筆を超えました。この署名や酒蔵の所有者の豊村酒造などさまざまな人の協力があって、現在、市や県などと協力して、津屋崎千軒

一帯の活性化に取り組んでいます。今後、不可欠なのは地域の協力だと考えます。その協力体制を作り、歴史ある風景を次世代に残していくために、これからも活動します。



▶NPO法人「津屋崎千軒を未来につなぐ会」の会長でもある津屋崎地域郷づくり推進協議会の山脇清会長

て取り組むことになったことには、感慨深い気持ちがあります。保存の取り組みは地域の人たちが主体となって進めていき、市はそれに対してノウハウやアドバイスを提供して、地域の頑張りを応援してほしいです。津屋崎千軒は歴史的な建物が比較的新しい建物の中に点在しているの

う話になると思います。また、津屋崎千軒は人々の生活の場でもありますが、この地を気に入って人が移り住み、地域に根差した人口が増えればという期待も寄せています。



▶津屋崎千軒を独自調査し、そのまちなみや景観の保存について精力的な活動を行う田上健一・九州大学教授



▲駅周辺の住宅開発に伴い開設された JR 東福間駅

JR東福間駅の周辺整備

JR東福間駅を中心とした神興・神興東地域は、団地の住民の高齢化が進むのに伴って、商業施設の撤退が始まりました。その結果、買い物に困っているという声が多く聞かれるほか、電車の利用者のために駅周辺に駐車場がほしいという声もあります。駅周辺には現在使っていない下水道施設があることから、駅周辺の再整備が求められています。

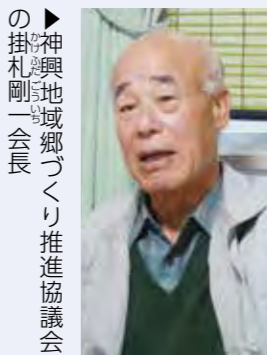
また、小学校や保育所などの子育てインフラが比較的に整っている地域であるため、今後は徐々に若い世代への入れ替わりも促進して行く必要があります。現在の住民の暮らしを守りながら、地域の活性化策を進め、店舗など生活に必要な施設の立地を、再度促して行くことが重要と考えられています。

地域ににぎわいを取り戻したい

東福間団地は、できた当時はとてもにぎやかな団地でしたが、現在は住民の高齢化と少子化が進んでいます。近所の店舗が撤退し、交通手段がない高齢者は買い物難民になり、さらにまちの活気が失われてしまうという悪循環です。住民たちも、神興郷づくり地域と神興東郷づくり地域が合同でイベントを開催する

などして、地域を盛り上げようと頑張っています。しかし、やはり行政によるハード面の整備も必要だと感じます。JR東福間駅周辺が開発され、買い物ができる場所や人が集まる場所ができれば、人が戻ってきて、再びにぎわいを取り戻すことができると思います。この地域の人たちは、地元に着用を持ち、以前のよりに活気ある元気なまちにしたいという切実な思いを持っています。市には、地域は何

を必要としているかという声に耳を傾けてほしいですし、地域と市が対話する機会を増えていると感じます。今回の整備事業が、地域の活気を取り戻す起爆剤になることを期待しています。



▶神興地域郷づくり推進協議会の掛札剛一会長

地域と市が手を取り合って

JR東福間駅は、この地域の人たちにとって玄関のような存在です。玄関に明かりが灯っていなければ、その地域の印象は暗く寂しいものになってしまってしまうでしょう。駅周辺が再整備されて、再び人が集まるようになれば、地域全体が活気づき、にぎわいが戻ってくると思います。ですから、今回の整備事業に地域の人たちは期待しています。

神興東地域でも団地の住民の高齢化の進行や店舗の撤退などの影響で、高齢者の買い物や交通の便が問題としてよく取り上げられています。高齢者だけでなく若い世代、そして将来地域を支える子どもたちも含め、みんなが利用しやすいものになってほしいと思います。

もちろん、地域の住民も全てを行政任せにしようというわけではありません。「地域でできることは地域で」という意識は、地域の人たちにも



▶神興東地域郷づくり推進協議会の保本周司会長

浸透してきています。最近では地域活動に参加する人も増えていきますし、地域づくりへの気運は高まっているように感じます。両者が手を取り合って、一緒にできることに取り組めれば、きつとうまくいくと信じてます。



▲新鮮な農産物を求めて多くのお客さんが訪れます

あんずの里市の改修事業

勝浦地域にあるあんずの里市は、人気の農産物直販所です。しかし、度重なる建物の増築で売り場が分断されていること、トイレが古いタイプでお客さんに不評なこと、大型バスが駐車できないことなど、さまざまな課題も抱えています。また、近隣に大型の直販所ができ、近年は売り上げが減少傾向です。今年、新原・奴山古墳群が世界文化

遺産に登録されたこともあり、観光客の立ち寄りスポットとしての魅力を高めていくことが求められます。そこで現在、国の地方創生交付金を充当し、増築による売り場の一体化やトイレの改修を進めています。また、大型バスが駐車できる駐車場の拡張計画にも取り組み、直販所としての機能の強化を進めています。

生産者も消費者も元気になるように

直販所の魅力は、新鮮な農産物はもちろん、生産者の顔が消費者に見えることです。また、生産者が自分のペースで農業を続けられるメリットもあります。組合は消費者のニーズを捉えてアドバイスをするなど、生産者と一緒頑張っています。また、店舗がなく買い物に困難な地域で出前市を開くなど、地域の直販所として貢献できることにも取り組んでいます。あんずの里市は21年目を迎え、改修工事が進んでいます。買い物しやすくすればお客さんが増え、生産者のやる気が増す。そうすれば直販所は活気づき、さらにお客さんが増える。そんな好循環を作って、地域が元気になればと思います。



▶あんずの里市利用組合の柴田文敏組合長

公共交通網形成計画の策定

市では平成20年から、主に高齢者を対象とした交通弱者対策として、ふくつミニバスを運行してきました。そのためミニバスは市内全域をカバーする必要があり、一つの路線が延々と地域を回る状況となっています。その結果、目的地到着まで時間がかかり、使い勝手が悪いとの批判も多くいただいています。

のアクセスの要請などもあり、市の公共交通網の再構築の時期が来たと考えています。そこで、今年度はこの定例的な見直しの年でしたが、これを見送ります。そして、来年度に民間バス会社とミニバスとの役割分担を調整し、新たなバス路線の計画となる「福津市公共交通網形成計画」を策定する予定です。これに基づき、ミニバスが、より使いやすい交通機関となるよう見直しを進めたいと考えています。



▲市内を5つのルートで運行しているふくつミニバス

取り組みを進めるにあたって

高齢化、子育て世代の急増、空き家問題、交通や買い物物の不便など地域の課題は多様化し、1次産業を中心に地域経済の停滞や人手不足など、市を取り巻く状況は日々変化しています。これらに対応しながら、将来にわたり暮らしやすいまちを維持するためには、骨太の政策も併せて必要です。

今、国からは「頑張る自治体は応援する」という姿勢を強く感じます。地方創生や行財政改革がその代表です。市の課題解決と将来に向けた取り組みを大きなストーリーで括り、総合的に取り組むことで、国の財政的支援も受けやすくなり、施策の効果も上がると考えます。ただし、限られた行政の経営資源（ひと・もの・かね）の中での取り組みであり、短期間に全てのことのできるわけではありません。来年度から、次期都市計画マスタープラン（10年計画）に基づき、なるべく早く効果を出すよう頑張りますので、市民の皆さん、関係者の方々のご理解とご協力をお願いいたします。

都市管理課長

問い合わせ

市都市管理課 ☎62・5036



▲福津市のまちづくりについて熱い思いを語る原崎市長

福津の魅力を発信していく
有馬会長 都市間競争の時代に大切なことがもう一つあります。都市プロモート、つまり福津市の特徴や良さを広く知ってもらうことです。どんなまちをつくるか、人や物をどう集めるか、戦略が必要です。そして、情報の発信も大切です。効果的に情報を発信することで、福津

市のブランド価値を高めれば、定住人口、交流人口が増え、地域は活性化されます。
市長 多くの人にどうやって福津市を売り出していくかは、私も重要だと考えます。今後、こういったまちのプロモートや私が重要と考えているふるさと納税の取り扱いを、現在取り組みを進めている新たなまちづくり組織に担ってもらうことも考えています。

有馬会長 福津市は海にも山にも近く、大型商業施設、世界遺産、田園風景、宮地嶽神社など、他にもいい素材がたくさんあります。とても恵まれていると思いますよ。
市長 本当にそう思います。福津市のことを紹介するとき、話したいことがたくさんあって困るほどです。また、世界遺産や光の道がメディアに取り上げられて、その効果も実感していま

す。来年1月には、宮地嶽神社を舞台とした映画が全国公開されますので、このチャンスを生かして、全国の福津市を知らない人たちにもっとアピールしていきたいと考えています。
有馬会長 食や自然などの恵まれた資源を生かして、地域の豊かさをアピールしてほしいですね。それと同時に、土地利用や交通網、流通の仕組みなどの整備を進めることで、観光を育てていくのが良いと思います。
市長 はい。より多くの人に福津市を発信していきます。また、それらの資源を生かして、ハードとソフト両方を整備しながら特色のあるまちづくりを進めていきます。みんなに住みたい、住み続けたいと思ってもらえる福津市を目指して頑張ります。



これからのまちづくりとは

新たなまちづくりを進めようとしている原崎市長。市都市計画審議会の有馬会長との対談で、これから福津市が目指すべき方向性やまちづくりへの思いについて語ってもらいました。

拠点の整備はまちづくりの核

有馬会長 都市間競争の時代と言われる現在、まちづくりは戦略がとても重要です。ハードとソフトを合わせて考え、どのようなまちをつかっていくか戦略を練らなければいけません。

市長 この10年間、市ではJR福間駅を中心とする中心拠点づくりに力を入れて取り組み、今のようになにがわいが生まれました。一方で、地域拠点である津屋崎地区では、郷づくり推進協議会やまちづくり団体を中心に、津屋崎千軒を守り活性化させようという機運が高まっています。もう一つの地域拠点、JR東福間駅周辺地域では、地域の疲弊感から、地元二つの郷づくり推進協議会が駅周辺整備の請願書を昨年12月議会に提出し、採択されました。これらの地域では、非常に危機感が高まっています。次の10年は、地域拠点の整備が重要だと感じます。

有馬会長 拠点の整備は、とても重要なことです。拠点はいわば、まちのツボです。ここを針で刺激するように手を入れることで、よい効果が表れ、正のスパイラルが生まれます。拠点が

うまく機能すれば、交通網が整備され、住み替えが進み、住宅地が再生されます。そして、拠点が生み出した正のスパイラルは、周辺地域の魅力を高めることにもつながるのです。

市長 就任以来、地域拠点の整備は、まず、津屋崎千軒の活性化に取り組んでいます。当時の面影を残す津屋崎千軒のまちなみは、貴重な観光資源です。これを生かして人を呼び込みたいです。次に、JR東福間駅周辺の整備です。周辺団地の高齢化

や店舗の撤退などで、生活の利便性が悪くなったとの声があります。一方では、静かな環境や小学校、保育所など子育てインフラは整っています。駅周辺を整備し、今の住民を大切にしながら新しい人も呼び込み、団地の再生を図ります。

有馬会長 拠点の整備には、例えば核となる駅周辺に店舗や病院、福祉施設などがあるといいですね。それらの土地利用と交通網をセットで考えれば、交通問題解消につながることもあり

ます。また、ハードだけでなくソフトの整備、つまりコミュニティの形成も必要です。お祭りを地域で開催するなどして人をつなぐことも大切でしょう。

市長 地域拠点整備は、まだこれからです。観光資源に富んだ津屋崎。かつて子育て世代でにぎわった東福間。どちらもさまざまな可能性を秘めていると思います。それぞれの特色と課題を踏まえて、整備を進めます。



▲市都市計画審議会会長として、市のまちづくりに10年以上関わる、有馬隆文・佐賀大学芸術地域デザイン学部教授